

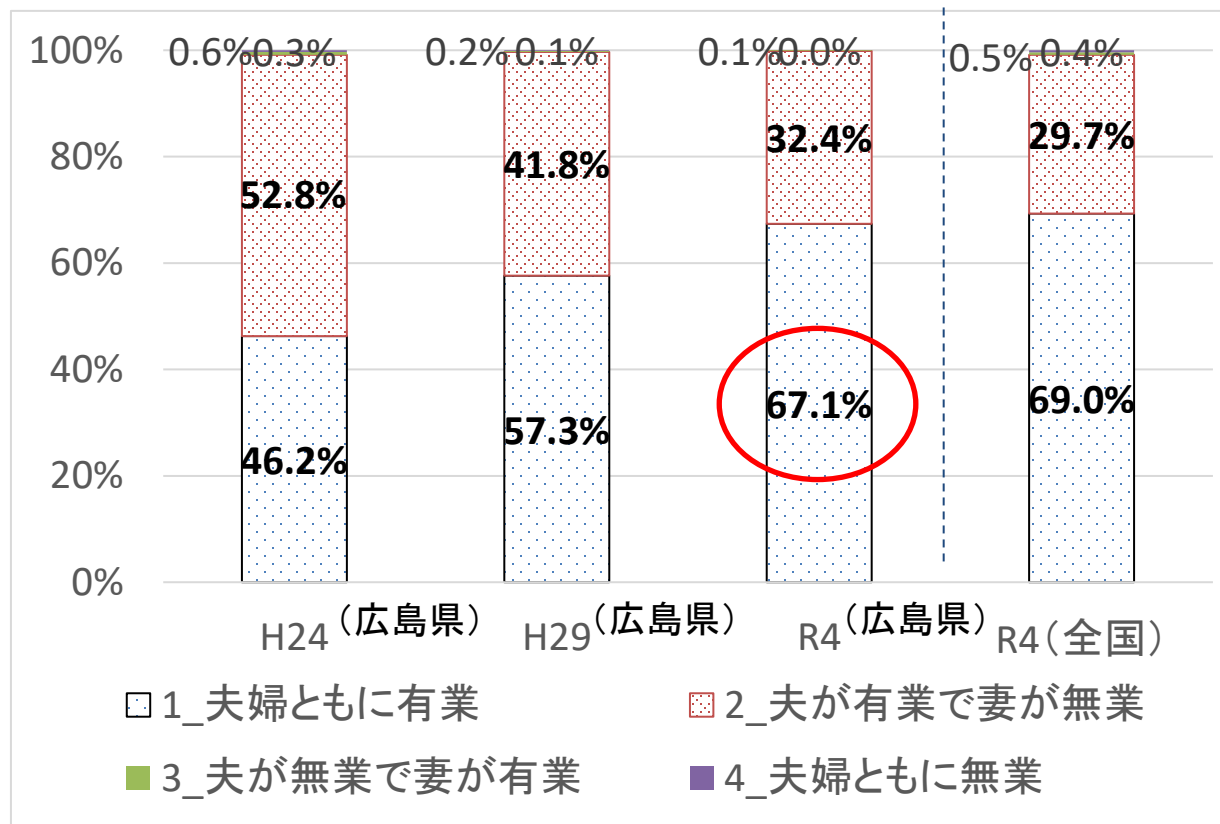


元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

(共育てに関する参考資料)

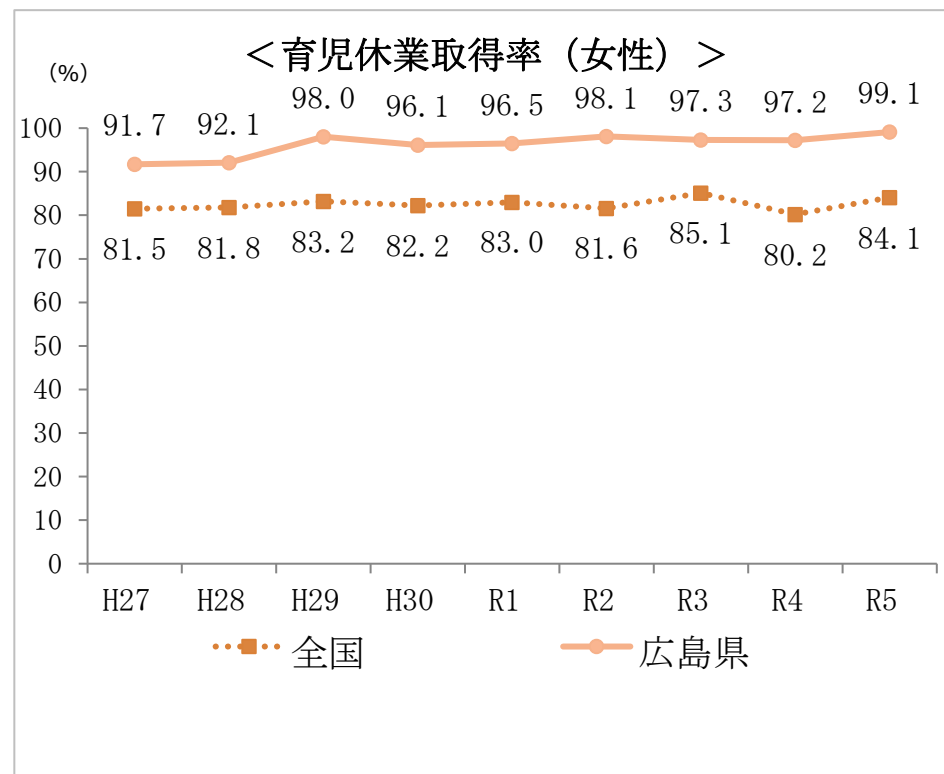
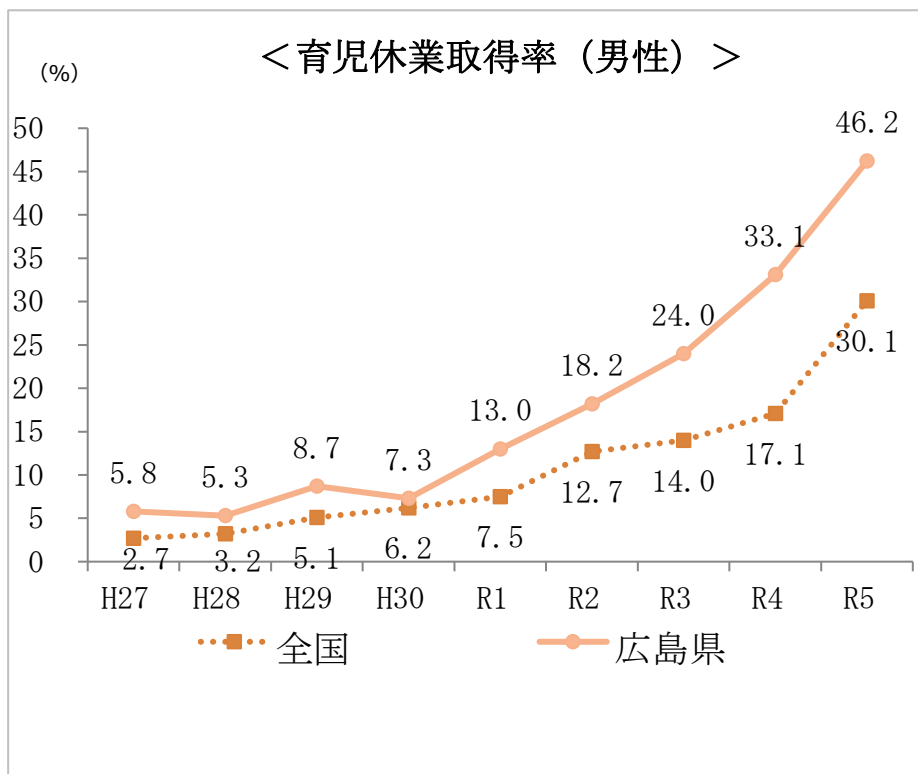
➤ 共働き世帯（夫婦ともに有業）の割合は増加傾向にあり、R 4では67.1%（全国平均69.0%）。
 ※6歳未満の子を持つ世帯かつ夫婦と子供から成る世帯

就業状況別の世帯割合



(令和4年就業構造基本調査 第140表)

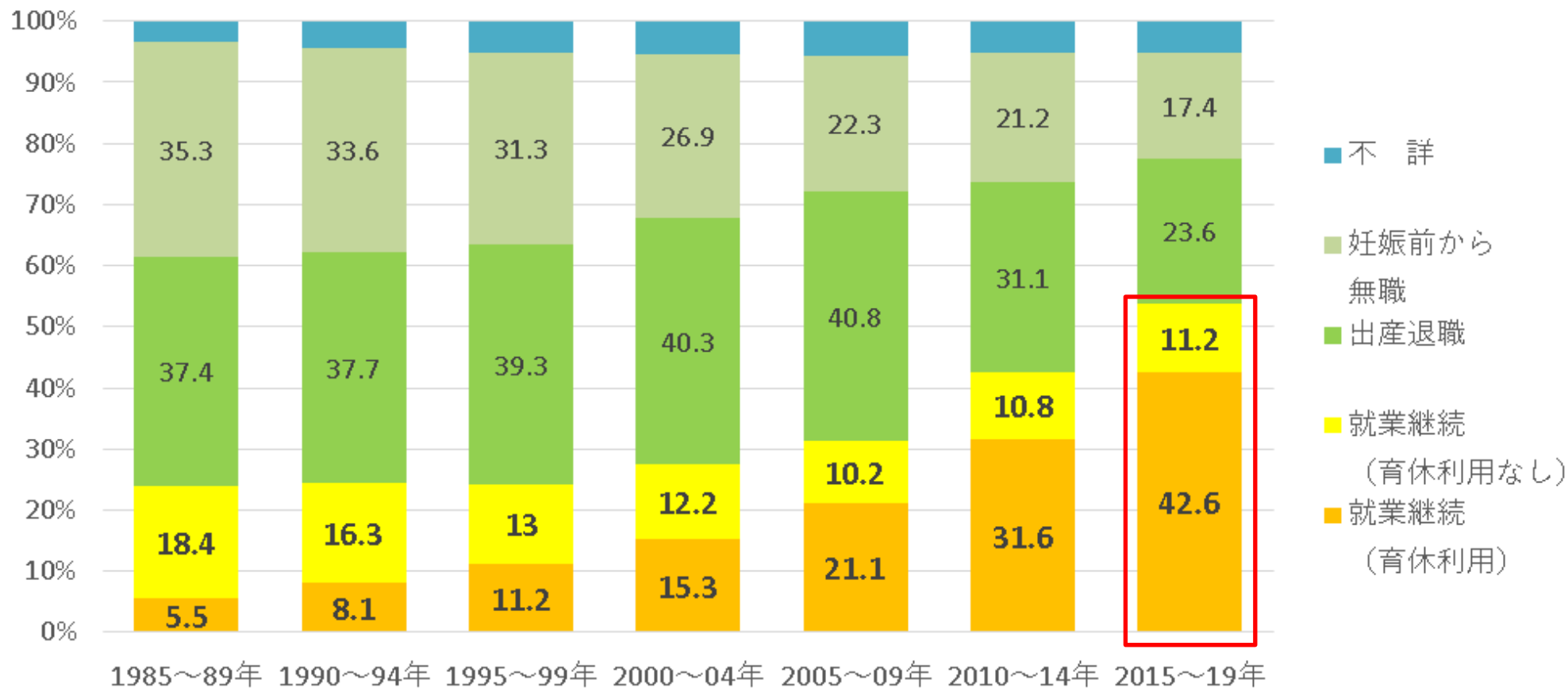
- 県内企業の男性の育児休業取得率は、全国の取得率を上回っており、令和5年では約2人に1人（46.2%）が取得している。
- 女性の取得率も全国と比較して高い傾向にあり、近年は95%以上を維持しているが、男性と女性の取得率には、依然として、大きな開きがある。



（厚生労働省「雇用均等基本調査」及び「広島県職場環境実態調査」を基に子供未来応援課作成）

第1子出産後の就業継続

➤ 2021年の全国調査において、第1子出産後の妻の就業継続者の割合は5割超に上昇した。

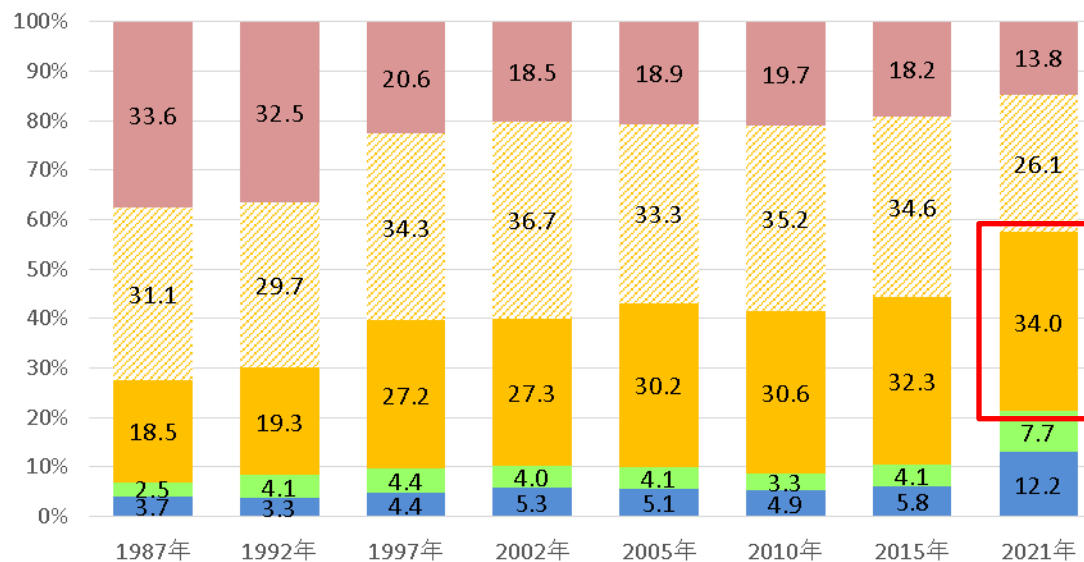


出典: 国立社会保障・人口問題研究所 「第16回出生動向基本調査(夫婦調査)」 (2021年)

未婚者の理想のライフコース

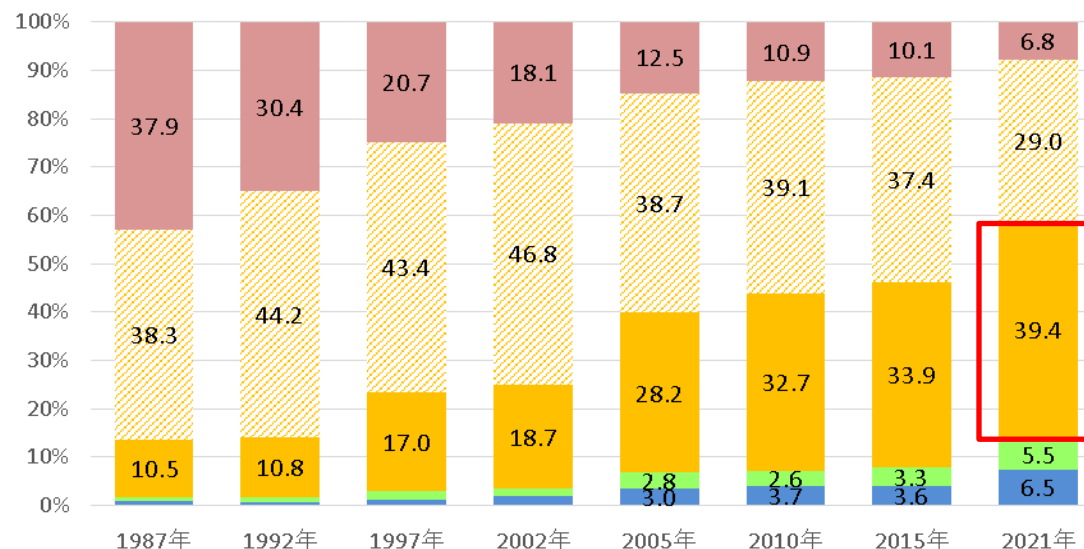
➤ 2021年の全国調査において、女性も男性も、両立コース「結婚し、子供を持つが、仕事も続ける」が初めて最多となった。

【18～34歳の未婚女性の理想のライフコース】



- 専業主婦コース
- ▨ 再就職コース
- 両立コース
- DINKsコース
- 非婚就業コース

【18～34歳の未婚男性がパートナーに望むライフコース】



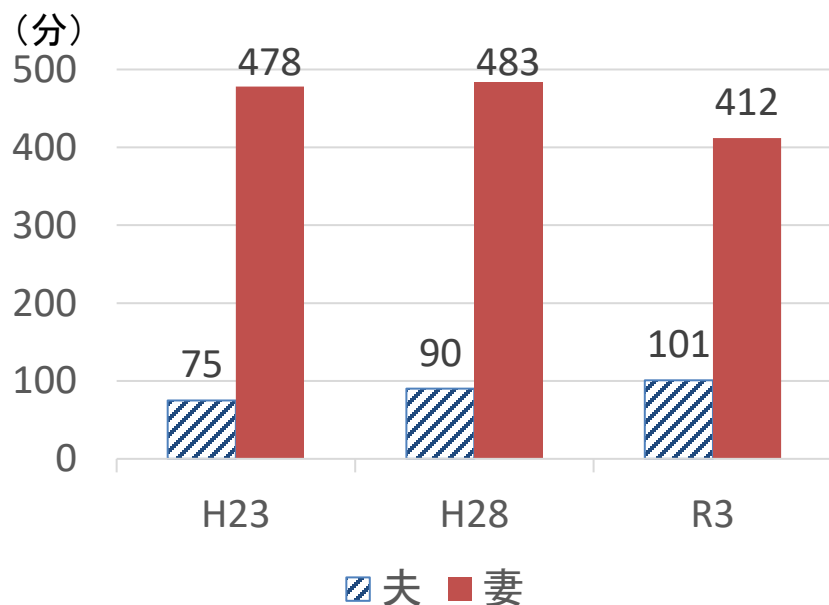
出典：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2021年)

家事・育児等を行っている時間

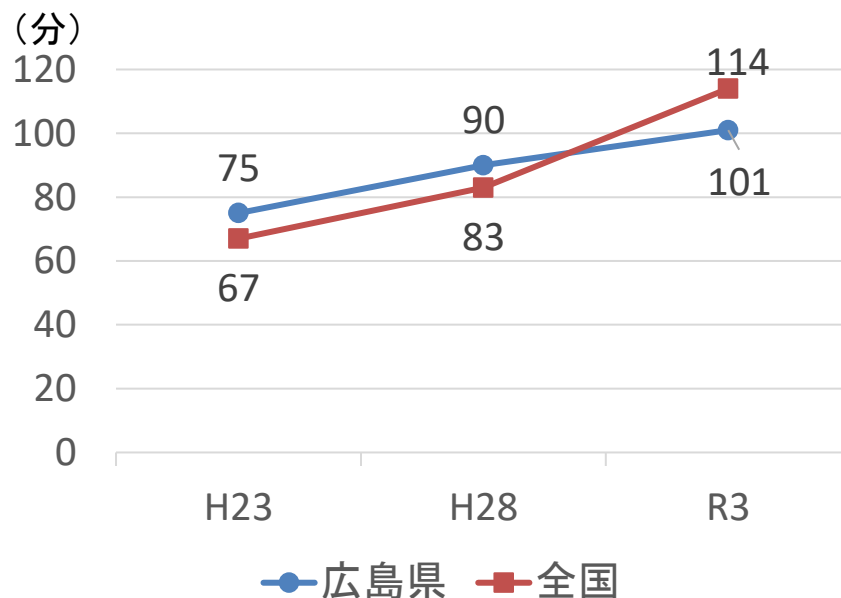
➤ 広島県の夫の家事・育児関連時間（注）は、年々増加しているが、R3では101分と妻（412分）の約4分の1であり、妻に負担が偏っている傾向がある。

（注）「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の時間の合計

家事・育児関連時間（広島県）



（夫）家事・育児関連時間

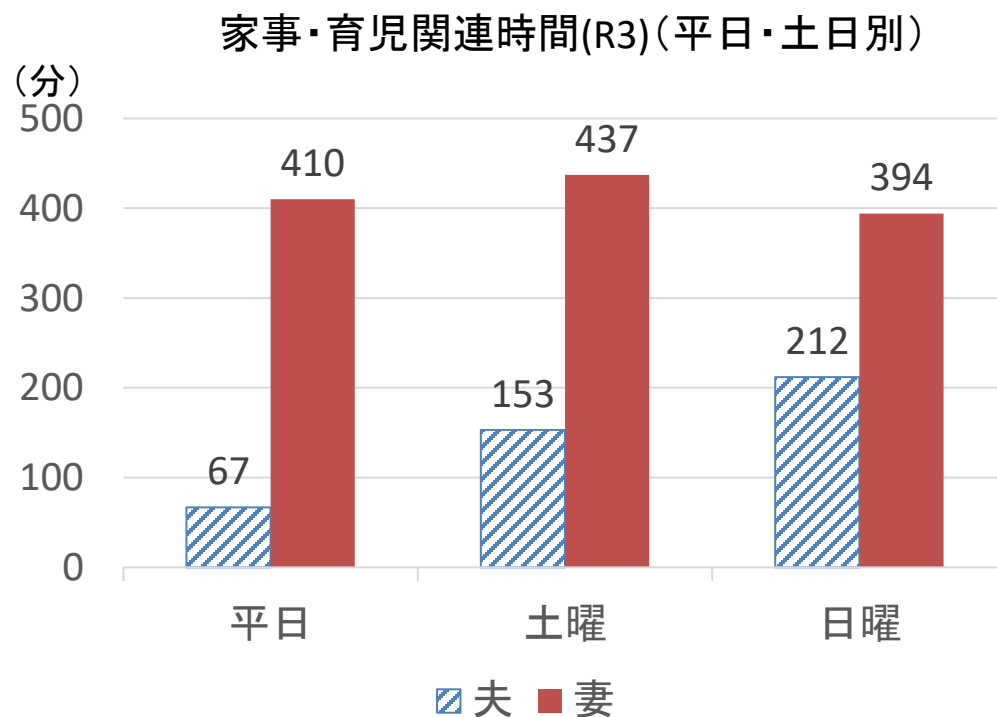
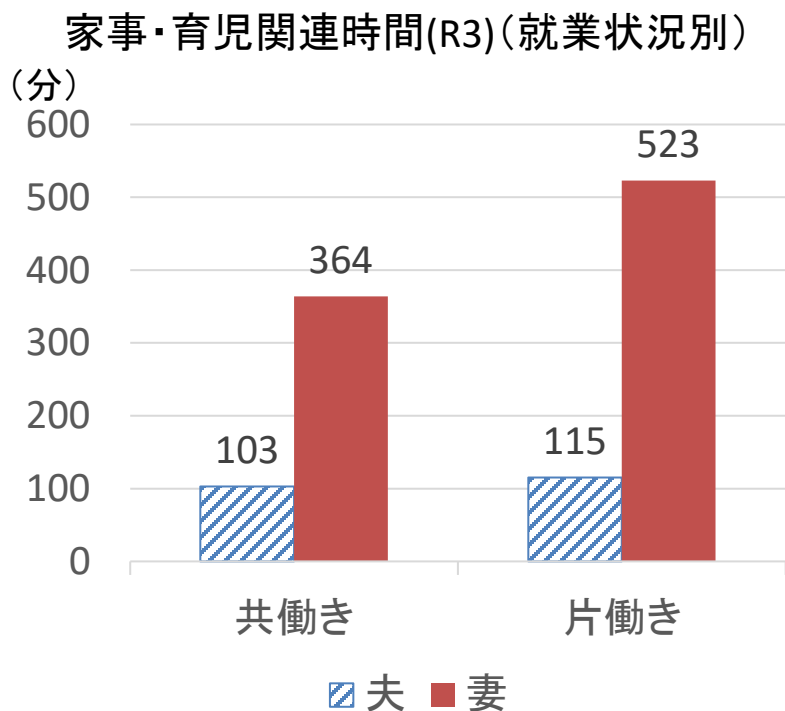


（令和3年社会生活基本調査）

※6歳未満の子のいる世帯、子供と夫婦から成る世帯

家事・育児等を行っている時間（就業状況別、平日・土日別）

- 広島県の夫の家事・育児関連時間を就業状況別にみると、共働き世帯（103分）と片働き世帯（115分）で大きな違いはなかった。
- 平日・土日別でみると、日曜（212分）は平日（67分）の約3倍長かったが、妻（394分）の約半分であった。



(令和3年社会生活基本調査)
※6歳未満の子のいる世帯、子供と夫婦から成る世帯

男性の家事・育児への参画（状態・意識）

- 男性自身が家事・育児を頑張っていると思っているのは46.8%、パートナーから見て頑張っていると思っているのは43.1%であった。
- 男性自身で家事・育児を頑張っていないと思っているのは20.8%、パートナーから見て頑張っていないと思っているのは30.4%であった。
- 男性自身で家事・育児を頑張りたいと思っているのは47.7%、パートナーから見て家事・育児をもっと頑張ってもらいたいと思っているのは47.8%であった。

・家事・育児を頑張っていると思うか（男性⇒自身、女性⇒パートナー）

回答者	頑張っている	どちらとも いえない	頑張っていない
男性 (n=1171) (自身について)	46.8%	32.4%	20.8%
女性 (n=873) (パートナーについて)	43.1%	26.5%	30.4%

・（男性⇒自身）家事・育児をもっと頑張りたいと思うか

回答者	頑張りたい	どちらとも いえない	頑張れない
男性 (n=1171) (自身について)	47.7%	41.1%	11.3%

・（女性⇒パートナー）家事・育児をもっと頑張ってもらいたいと思うか

回答者	頑張ってもらいたい	どちらとも いえない	頑張らなくてよい
女性 (n=873) (パートナーについて)	47.8%	35.0%	17.2%

- 共働き・片働きで大きな差は見られず、年代別では、男性自身又はパートナー評価のいずれにおいても、20~30代の方が、40代以上と比較して、頑張っていると思っている人の割合が高い。
- 子供の有無別では、乳幼児がいる家庭において頑張っている割合が高い。

・就業状況別・年代別

回答者		頑張っている	どちらともいえない	頑張っていない
男性 (n=985) (自身について)		47.3%	32.2%	20.5%
就業状況別	共働きn=721	47.5%	32.3%	20.1%
	片働きn=253	46.6%	31.2%	22.1%
年代別	20~30代 n=418	57.0%	27.8%	15.3%
	40代以上 n=567	40.2%	35.4%	24.4%
女性 (n=1059) (パートナーについて)		44.8%	26.0%	29.2%
就業状況別	共働きn=730	43.9%	26.2%	29.8%
	片働きn=314	46.8%	25.5%	27.7%
年代別	20~30代 n=577	50.6%	24.3%	25.1%
	40代以上 n=481	37.9%	28.1%	34.1%

・子供の有無別

回答者		頑張っている	どちらともいえない	頑張っていない
男性 (n=985) (自身について)		47.3%	32.2%	20.5%
子供なしn=176		47.5%	35.2%	19.3%
子供ありn=809		47.7%	31.5%	20.8%
3歳未満 n=207		59.9%	27.5%	12.6%
6歳未満 n=383		55.9%	28.5%	15.7%
女性 (n=1059) (パートナーについて)		44.8%	26.0%	29.2%
子供なしn=201		41.8%	34.3%	23.9%
子供ありn=858		45.6%	24.0%	30.4%
3歳未満 n=342		55.0%	23.4%	21.6%
6歳未満 n=522		52.3%	22.2%	25.5%

※調査データから子供未来応援課において分析

家事・育児を頑張っていないと思う理由

- 家事・育児を頑張っていないと思う理由について、男性自身は、仕事が忙しい（35.6%）が最も高く、次いで仕事を頑張っているから、家事・育児スキルが不十分との回答割合が高かった。
- 女性（パートナー）から見て回答割合が最も高かったのは「家事・育児を自分事だと思っていないから」（49.4%）であり、次いで仕事が忙しい、仕事を頑張っているから、家事・育児スキルが不十分との回答割合が高かった。

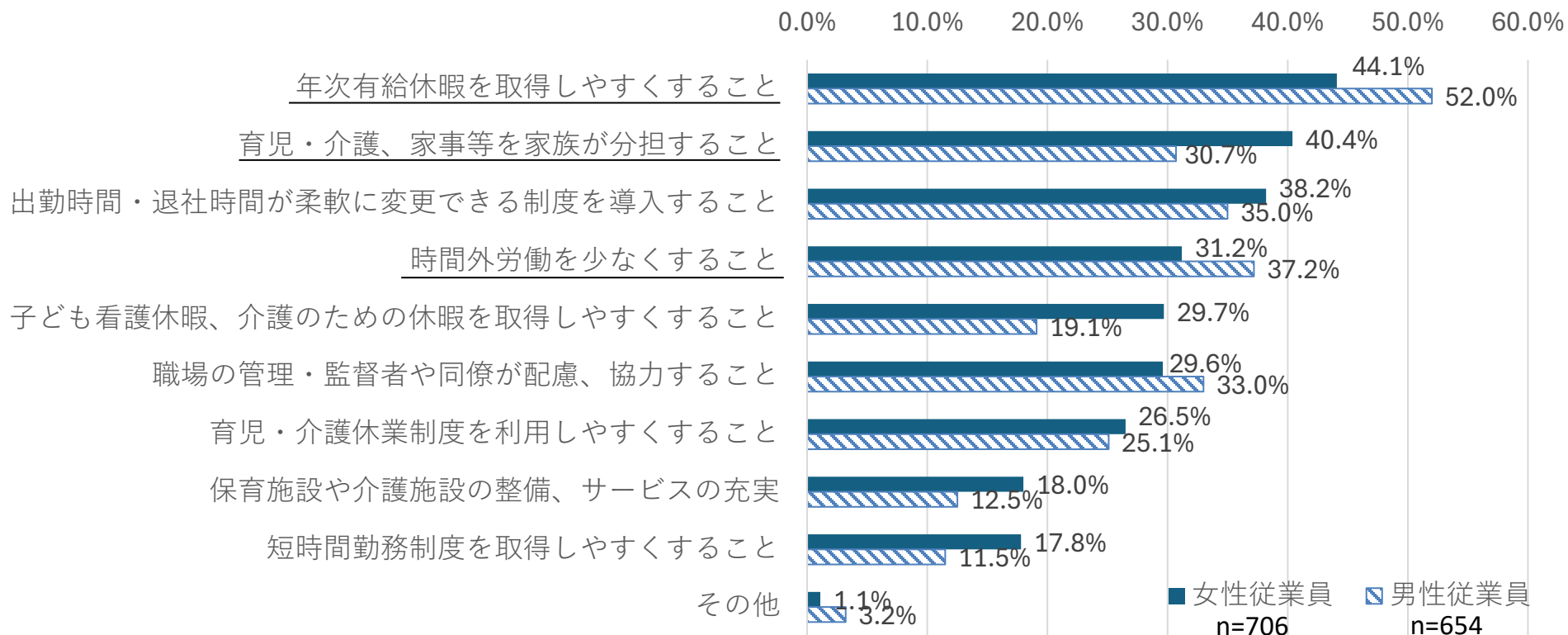
（複数回答、単位：%）

男性 （自身について） n=244	自身の家事・育児のスキルが不十分で時間がかかるから	パートナー（配偶者）が自分に家事・育児を任せられないから	家事・育児は、パートナー（配偶者）の役割だから	自身の仕事が忙しく、家に帰る時間が遅いから	家事・育児をしたくないから	子どもが自分になつからないから	家族と離れて暮らしているから	自身は仕事を頑張っているから	家事・育児を頑張らなくても、よい／問題ないから	その他	特になんともなく
	20.8	8.3	7.8	35.7	9.0	2.8	2.3	21.6	13.5	2.8	16.6
女性 （パートナーについて） n=265	パートナー（配偶者）の家事・育児のスキルが不十分で時間がかかるから	自分がパートナー（配偶者）に家事・育児を任せていないから	家事・育児は自分の役割だから	パートナー（配偶者）は仕事が忙しく、家に帰る時間が遅いから	家事・育児を自分事だと思っていないから	子どもがパートナー（配偶者）になつからないから	家族と離れて暮らしているから	パートナー（配偶者）は仕事を頑張っているから	家事・育児を頑張らなくても、よい／問題ないから	その他	特になんともなく
	31.2	21.6	12.0	40.3	49.4	7.9	1.9	33.7	5.8	3.8	3.7

仕事と家庭の両立のために重要なこと

- **仕事と家庭の両立のために重要なこと**として最も多くの人を選んだのは、「**年次有給休暇を取得しやすくすること**」であった。
- **次いで多いのは、女性従業員は「育児・介護、家事等を家族が分担すること」、男性従業員は「時間外労働を少なくすること」となっており、性別によって違いが表れている。**

仕事と家庭の両立のために重要な取組（複数回答）





ENERGY
OF
PEACE
ひろしま

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/>